

埼玉大学大学院 政策科学研究科

政策科学研究科は、公共政策の研究・教育を目的とする新構想の大学院として昭和52年に創立された。政策科学が、新しい学際的な研究分野であるために、従来の研究科のように学部の上に設置する形態をとらず、どの学部にも属さない基幹講座を有する独立研究科になっている。

現在、7講座（基幹講座3、協力講座4）の教官16名と協力教官3名（教授8名、助教授6名、客員教授5名）で運営されている。（他に、留学生のための国際プログラムを担当する教官10名が研究科に属している。）教官は、情報数理科学、経済学、政治学、行政・政策科学4のグループに分れている。社会科学的研究科とみなされているためか、助手定員が1名もついていない。（したがって、教授みずからパソコンを教室に運んだり、計算機の保守に立ちあったりすることになる。）講座に学生を割り当てることは行わないので、工学部に見られるような教授、助教授、助手、院生が一体となった研究室の雰囲気はない。

学生（定員25名）の大半は、中央官庁または地方自治体

からの派遣者である。出身学部は、工学部、理学部農学部、経済学部、法学部、教育学部などさまざまである。数理的基礎知識が揃っていないので、情報数理科学関係の授業は、どうしても文科系出身者に合わせて、理論には深入りせずに、解析手法の使い方の説明に力点を置くことになる。関連分野が広いために、講義の数が多くなり、ほとんどの学生が、必要単位数の2倍程度の単位を取っている。修士論文のテーマは、どうしても自分の職場で経験したことに関係したものが多く、道路の建設順序、救難船の配置計画、データベースシステムにおけるファイル配置などOR的なものが増えてきて、これからが楽しみである。

授業科目などの詳細については、本誌1984年4月号の刀根薫教授の記事を参照されたい。また、研究科のパンフレットをご希望の方は、下記までご請求ください。

〒338 浦和市下大久保255

埼玉大学大学院政策科学研究科

電話 0488—52—2111 内線 2762

（古林 隆）

中央大学 理工学部 管理工学科

中央大学は、1885年（明治18年）に18人の少壮法律家集団によって、「英吉利法律学校」として創設されました。本学の「建学の精神」は、その創設者たちの英法的精神の中に源泉をもち、長い歴史の中で培われた「質実剛健の学風」となって、法・経済・商・理工・文の5学部を擁する大規模な総合大学に成長した今日の中央大学にも、脈々と受け継がれています。

理工学部は昭和24年に工学部として発足し、科学者、技術者の養成にあたってきたが、科学の進歩と技術の躍進に応じるため、昭和37年に学科を増設して理工学部となり現在に至っている。

学生は入学当初から数・物理・土木工・精密機械工・電気工・工業化・管理工の7学科のいずれかに所属し、全学科に共通の一般教育科目のほか、それぞれの学科の専門教育科目を受講しなければならない。卒業生が国内・国外のあらゆる分野で活躍できるよう、基礎から高度の専門にいたる講義のほか、演習、実験、実習を多く設け科学の進歩に対応しうる幅広い教養と人間性豊かな人材の養成に力を注いでいる。

さて前おきが長くなってしまったが、ここで管理工学科の紹介に移ろう。日本の工業製品が世界の注目を浴びているのは、理学あるいは工学の各分野における理論と